Indoor Environment, Vol.23, No.1, p.21, 2020

# 学術大会における大会長奨励賞とさらなる学会誌の発展をめざして

Prospect for advanced cultivation on journal of INDOOR ENVIRONMENT with prize winners at annual meetings of the SIEJ

池田 四郎[1,3]，徳村 雅弘[2,3]

[1]株式会社ガステック
[2]静岡県立大学食品栄養科学部
[3]一般社団法人室内環境学会 出版委員会

室内環境学会学術大会(2009年までは研究発表会)では，大会長奨励賞として優秀と認められたポスター発表者と口頭発表者に対し表彰が行われてきました。大会1日目にポスター講演とポスター発表(コアタイム)が開催されることから，ポスター賞については1日目の夕刻に開催される懇親会で受賞者の発表および表彰が行われてきました。2日目の午後まで続く口頭発表については大会後に受賞者が決められ，機関誌である「室内環境」の翌号で発表されてきました。

大会長奨励賞は，その名の意味する通り，業績を高く評価し今後への期待と激励の意を表する賞です。口頭発表では①独創性，②新規性，③信頼性，④技術的・社会的有用性，⑤学術的有用性，⑥発表力の6つを，ポスター発表では①新規性，②信頼性，③技術的・社会的有用性，④学術的有用性，⑤表現力の5つを評価項目として，大会長奨励賞審査委員会委員による採点結果にもとづき受賞者が決定され，さらなる研究の発展が祈念されます。過去には奨励賞を受賞した発表テーマが，学術大会でのディスカッションによりさらにブラッシュアップされ，その後原著論文として「室内環境」誌に投稿され，掲載された例も複数あります。このように，学会で発表された内容が学会会員からの質問や意見により，着眼点や考察内容の点で深化し，さらに査読を経て学術誌の掲載論文として世に公開されるプロセスは，学会における学術活動の根幹と言えるのではないでしょうか。出版委員会としても，完成度の高い受賞テーマが自誌の掲載論文となるよう，積極的な活動が重要と考えています。

2019年室内環境学会学術大会(沖縄)では，大会長奨励賞として口頭発表部門では3件(本号の会報にて発表)，ポスター発表部門では学生による発表から6件，正会員による発表から4件が表彰されました。また大会長技術賞として3件(本号の会報で発表)が表彰されました。出版委員会発の企画である本特集では，学術大会終了時点で結果がわかっていたポスター発表部門の受賞者に出版委員会から執筆を依頼してご投稿いただいた，「受賞の言葉」をお届けいたします。研究の概要はもちろん，各著者の着想や得られたデータの価値，まとめ方などご覧いただければと思います。また受賞者の皆様には，今後ぜひ論文としてまとめていただき，「室内環境」誌にご投稿くださいますよう，紙面を借りてお願い申し上げます。

最後に本特集にあたり，ご多忙の中，快く執筆を引き受けていただいた受賞者の先生方，並びに本特集にご理解とご協力をいただきました2019年室内環境学会学術大会大会長の三宅祐一先生に心より御礼申し上げます。